

東京証券取引所 市場第一部 証券コード6926

岡谷電機産業株式会社 2016年度(2017年3月期) 決算説明会

2017年5月29日(月)



目次

第1部 2016年度 決算概要 第2部 2017年度 計画値 第3部 経営方針



第1部 2016年度 決算概要



1. 決算ハイライト

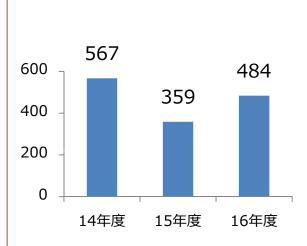
売 上 高営 業 利 益純 利 益 ※

122億26百万円 4億84百万円 3億65百万円 (前年比99%) (前年比135%) (–)

売上高 (百万円)

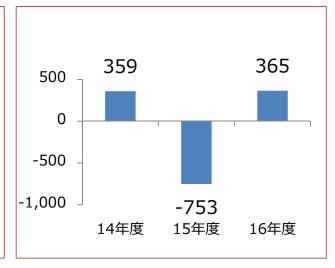


営業利益



純利益※

(百万円)



※親会社株主に帰属する純利益



2. 損益計算書

為 替:1USD=120.62円→108.93円(円高)

(百万円)

		15年度	16年度	前年比	
売	上 高	12,409	12,226	△183	99%
	ノイズ	7,794	7,730	△64	99%
	サージ	2,087	2,090	3	100%
	表示	1,872	1,800	△72	96%
	センサー	655	604	△51	92%
国	内	5,826	5,807	△19	100%
海	外	6,583	6,418	△165	97%
	アジア (万USD)	4,569	5,003	434	109%
	欧米 (万USD)	888	889	1	100%
	海外 (万USD)	5,457	5,892	435	108%
営(業 利 益 利 益 率)	359 (2.9%)	484 (4.0%)	125	135%
経	常 利 益	323	468	145	145%
純	利 益	△753	365	1,118	_

※15年度は特別損失△13億20百万円あり

売上高:△2億円(為替影響△7億円・実質+5億円)



3. 業績予想との差異分析

売上高 122億26百万円 △2億円 アジアは好調 国内及び欧米は伸び悩み
 営業利益 4億84百万円 △2億円 国内の売上目標未達
 純利益※ 3億65百万円 △1億円 海外人件費増

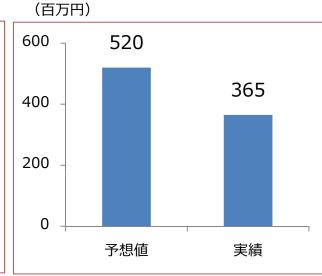
売上高



営業利益



純利益

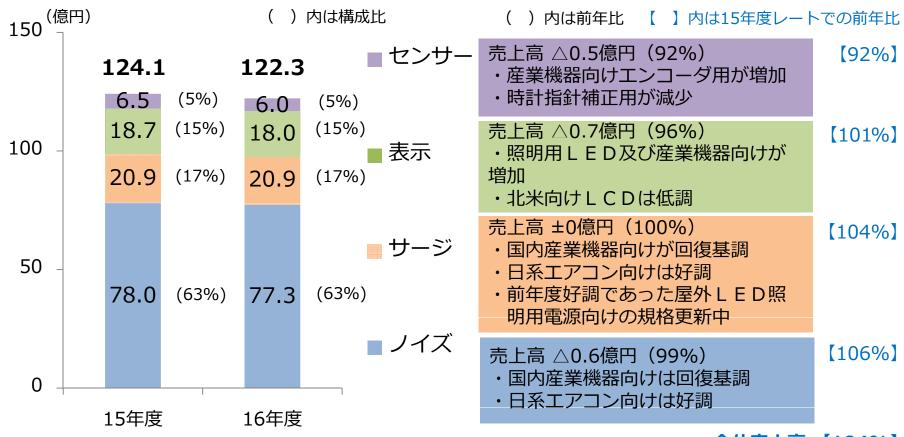


※親会社株主に帰属する純利益



4. 売上高(セグメント別)

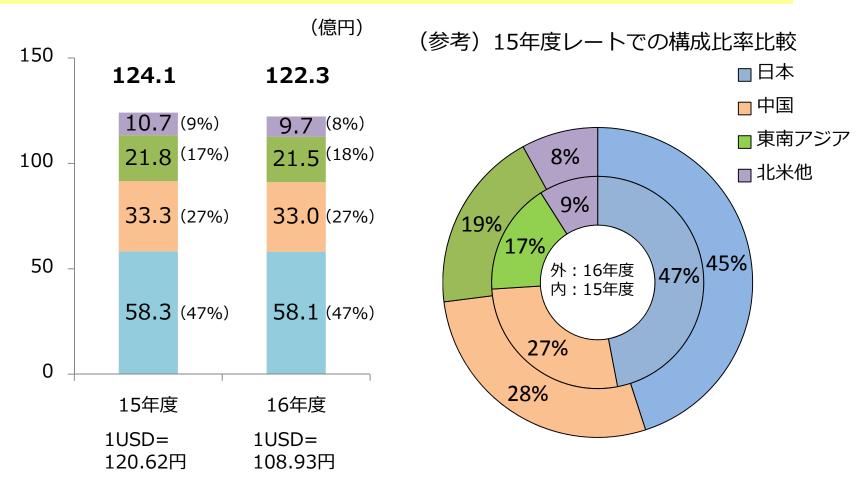
- ・セグメント別の構成比に変化なし
- ・ロボットをはじめとする産業機器向けが下期より回復基調
- ・中国・東南アジアが好調ではあるものの、為替の影響を強く受ける





5. 売上高(地域別)

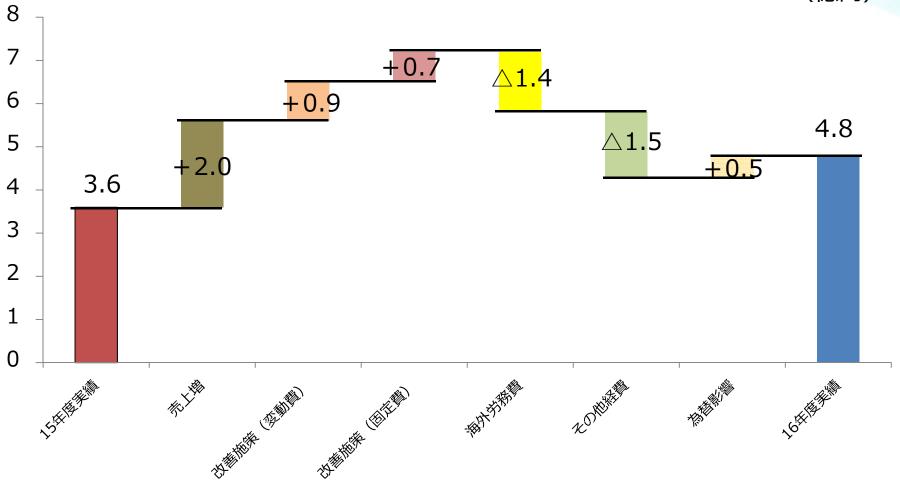
- ・円高影響で売上高は減少
- ・中国・東南アジアは好調。構成比率アップ





6. 営業利益の増減要因

(億円)





7. 貸借対照表

・総資産130億円⇒144億円(+14億円)。現預金、設備、投資有価証券が増加

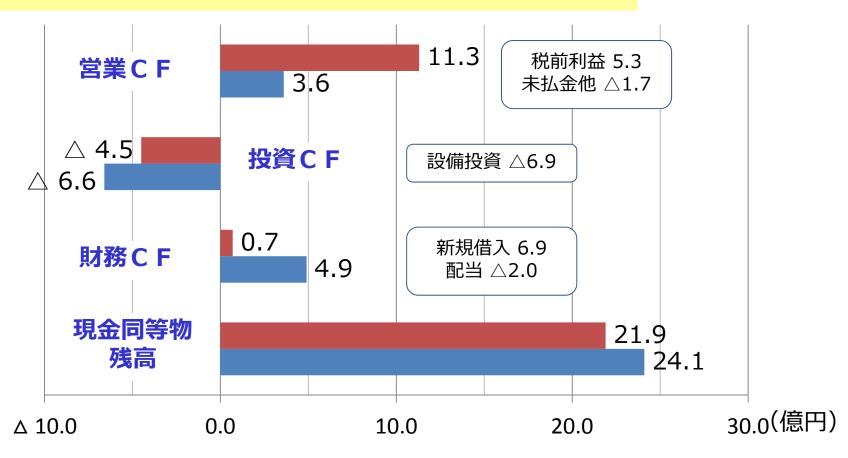
15年度 16年度 前年比 (百万円)							(百万円)	
	•				13十反	10十/支	りまし	
			現預	金	3,191	3,416	225	新規借入による
	流		売 上 債	権	3,853	3,962	109	
	資		棚卸資	産	1,426	1,592	166	→ 中国保税区にスリランカ 品倉庫を設置(短納期対
資 産			そ の	他	461	356	△105	応のため)
の部	流	動	資 産 合	計	8,931	9,326	395	投資6.9億円
	固	固定	有形/無	₹形	2,199	2,740	541	主に埼玉・スリランカ
	資	産	投	資	1,859	2,382	523	
	固	定	資 産 合	計	4,058	5,122	1,064	投資有価証券 5.5億円(時価上昇)
負債		利	子 負	債	921	1,618	697	
の部	そ	の	他 負	債	3,482	3,633	151	
純	資	産	の	部	8,586	9,196	610	
						_ 配当△2億円		
総	資 産 己 資 本 比 率		12,989	14,449	1,459	有価証券評価差額4.3億円 など		
自			本 比	率	66.1%	63.6%	△2.5%	



8. キャッシュ・フロー

- ・未払金減少・設備投資によりフリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF) は△3億円。
- ・新規借入の実行で現金同等物は昨年比2億円の増加。

- ■16年3月期
- ■17年3月期





9. カルテルの状況

【集団民事訴訟】

米国 和解済

→一部企業が離脱。引き続き対応が必要

(引当金1.3億円を計上済)

カナダ 訴訟提起されている

【競争法規制当局】

米国・台湾調査終了

複数の国調査継続中



第2部 2017年度 計画値



1. 業績予想値

・売上高は16年度比5%成長を計画

想定為替レート: 110円

年間

売 上 高営業利益 純利益※ 16年度実績

12,226百万円 484百万円 365百万円

(1USD=108.93円)

17年度計画

12,800百万円 (105%)

650百万円 (134%)

430百万円 (

(118%)

(1USD=110円)

上期

売 上 高営業利益

純利益※

16年度実績

5,992百万円

231百万円

176百万円

17年度計画

6,400百万円

(107%)

240百万円

(104%)

150百万円

(85%)

※親会社株主に帰属する純利益



2. 売上高・利益計画

為 替:1USD=108.93円→**110円**

(百万円)

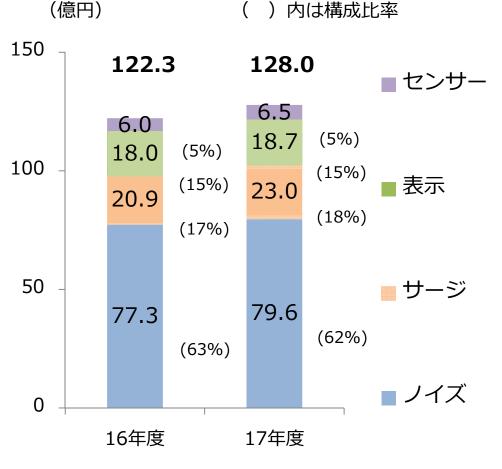
		2016年度	2017年度	前年比	
売	上 高	12,226	12,800	574	105%
	ノイズ	7,730	7,970	240	103%
	サージ	2,090	2,300	210	110%
	表示	1,800	1,870	70	104%
	センサー	604	660	56	109%
国	内	5,807	5,920	113	102%
海	外	6,418	6,880	462	107%
	アジア (万USD)	5,003	5,250	247	105%
	欧米 (万USD)	889	1,000	111	112%
	海外 (万USD)	5,892	6,250	358	106%
営(業 利 益 利 益 率)	484 (4.0%)	650 (5.1%)	166	134%
経	常 利 益	468	620	152	132%
純	利 益	365	430	65	118%



()内は前年比

3. 売上高(セグメント別)

- ·2016年度実績122億円 ⇒ 2017年度計画128億円
- ・エアコン好調。半導体製造装置を中心に産業機器向けの拡大を見込む



売上高+0.5億円(109%)

・産業機器向けエンコーダ用は新規顧客

売上高+0.7億円(104%)

- ・産業機器向けは新規拡大
- ・エレベータ向け新規LED照明

売上高+2.1億円(110%)

- ・産業機器向けは新規拡大
- ・エアコン向けは好調
- ・公共インフラ向け小型SPD

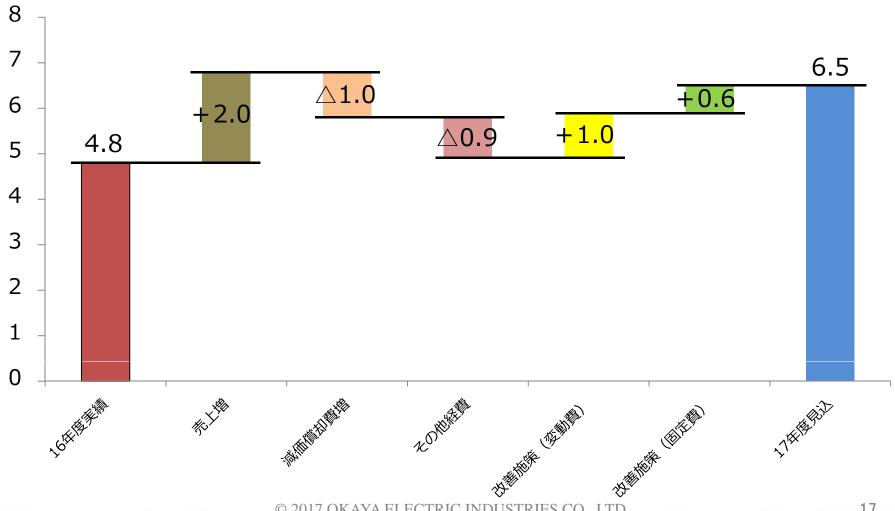
売上高+2.3億円(103%)

- ・産業機器向けは新規拡大 (コンデンサ、箱型NF)
- エアコン向けは好調 (コンデンサ、電源コイル)



4. 営業利益の増減要因

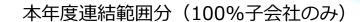
(億円)





5. 設備投資·研究開発費

設備投資:総額6億円





主な投資内容

- ・スリランカ工場:生産高度化のための設備更新
- ・中国工場:自動化・ロボット導入による省人化
- ・長野技術センター:試作・評価設備導入

研究開発費:総額4億円



主な開発テーマ

- ・高信頼性(大容量・大電流)コンデンサ
- ・通信用サージアブソーバの品種拡大



6. 配当計画

本年度配当計画

- ・1株あたり年間9円(中間配当4円)*据え置き
- ・配当総額 201百万円
- ·配当性向 47%



第3部 経営方針

第9次中期経営計画(2015~17年度)の進捗



1. 第9次中期経営計画の進捗

I 売上高・利益・ROEの推移

	第9次中期経営計画				
	17年度	15年度	16年度	17年度	
	当初目標	実績		業績予想	
売上高	150億円	124億円	122億円	128億円	
年率成長	5%	△8%	△1%	5%	
営業利益	10億円	3.6億円	4.8億円	6.5億円	
営業利益率	7.0%	2.9%	4.0%	5.1%	
ROE	7.0%	△8.1%	4.1%	4.5%	



1. 第9次中期経営計画の進捗

Ⅱ 重点施策

- (1) 持続的成長に向けた施策
 - ①新規事業ロードマップの実現
 - ·**企画開発部**発足(17年5月)
 - ②新規顧客の開拓(専任部隊設置)
 - ·**企画営業部**発足(17年4月)
 - ③重点分野・商品への攻勢

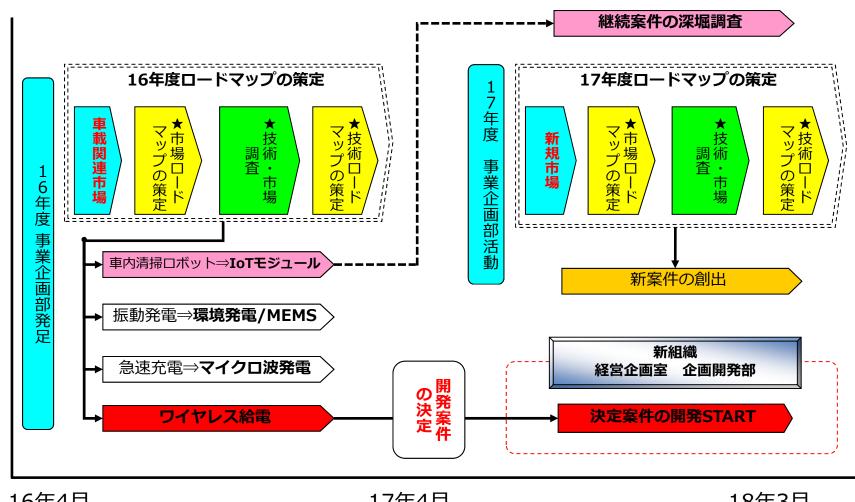
(重点分野) **車載産業**、ロボット、インバーター、自動販売機等 (重点商品) コイル、セラミックのサージ製品

- (2) リソースの増強
 - ・技術系人材を中心に採用中 →新商品比率の引き上げ
- (3) "コミットメント"の浸透



1. 第9次中期経営計画の進捗

Ⅲ 新規事業ロードマップの実現



16年4月 17年4月 18年3月



2. 目指すべき経営のイメージ

顧客

「OKAYAブランドへの信頼」

顧客とともに好循環を生み出せる体制を構築する

開発・技術

「高信頼性商品の開発」

生産

「安定生産・高品質を保つ生産」

営業

「価格競争から信頼競争へ」

企画営業部設置

管理

「HRの強化」

経営企画

「経営品質向上」 &「成長事業創出」

企画開発部設置

企業価値の向上



3. コーポレートガバナンス

2015年11月26日、「コーポレートガバナンス基本方針」を制定

健全な事業活動を展開するにあたり、法令等を遵守し、社会規範・企業倫理に則って行動するとともに、地球環境保全、社会貢献、人権尊重等について企業の社会的責任を果たすことを基本方針とし、ステークホルダーとのより良き関係確立に努めます。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社は株主に対する受託者責任及び顧客、社会、社員などのステークホルダーに対する責任並びに当社の経営理念を踏まえ、実効性あるコーポレートガバナンスの実現を構築し、当社グループの企業価値を永続的に高めるよう努めるものとする。

~「コーポレートガバナンス基本方針」第1条~

詳細は当社WEBサイトをご覧ください ——





Components of the future

未来の部品

ご清聴ありがとうございました

連絡先窓口:経営企画室

メールアドレス: OEI_Kouhou@okayaelec.co.jp

電話番号:03-4544-7000

FAX番号: 03-4544-7007

なお、本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、 潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性があります ことをご了承ください。